

平成30年度 陽光の園 事業報告

サービス目標

- (1) 入所利用者の高齢化・重度化に対応して、食事・排泄・入浴等のサービス提供について見直し、サービス提供体制の再構築を図る。その際、介護報酬改定に伴い新たに設定された医療連携に伴う加算や療養食加算等の取得を見据えながら多職種で推進する。
⇒医療的ケアの現地研修や排泄に関してオムツアイテムの見直し等に取り組む成果が出たが、加算申請への展開および食事・入浴への取り組みは次年度への課題となった。
- (2) 独居世帯の増加等複雑化・多様化する地域ニーズに対して、引き続き、地域包括支援センター・居宅介護支援サービスが着実に的確に伝えていく。そして、筋トレ事業等とも連携し、地域の福祉ニーズを掘り起こし、通所介護事業における自立支援サービス内容を充実させ利用率の向上に努める。
⇒介護予防も含めケアプランの依頼に対する受諾は限られた人数体制のなか、地域での信頼を積み重ねを大切に対応を継続した。通所受入体制の構築は土曜日のサービス内容の検討に入った。
- (3) 質の高いサービスを目指す施設に相応しいハード面の再整備に取り組む。建物の大規模修繕や設備の更新を行うとともに、災害等リスクに強い施設になるように努める。
⇒屋上防水および建物北面外壁の修繕に取り組んだ。設備修繕も含め今後大規模な取り組みの必要性が明確になった。

目標達成にむけての重点課題

(1) 業務力向上の取り組み

- 記録の電子化の取り組みのなかで、多職種協働が効率よく推進する情報の共有化を図る。
⇒規則やマニュアルについて共有ファイルの活用を推進した。また、次年度導入を目指し、アクセスソフトを基本にケア記録や事故報告書等陽光の園の書式を活かしたソフト開発やケアチェックのタブレット入力を模索した。

○ 介護物品や食形態等の見直しを行いつつサービス提供時間や提供頻度の見直しを行い、生産性を高められる業務提供体制の再構築を行う。上半期に試行しつつ検討し、下半期には軌道に乗せる。

⇒各部署で業務見直しを行うとともに介護物品等の有効性を検討した。

○ 昨年度に引き続き災害をはじめ事故・感染症対策など、実際のリスク体験に基づき改定しているマニュアルを実践訓練等により徹底する。

⇒想定される状況に対してきめ細かい見直し作業に入り、防災及び事故マニュアルの改訂を行った。また、ノロウイルス等の感染症も最小限に留めることができた。

(2) 組織力強化と財務状況の健全化

○ 入所・ショートステイ・デイサービス等の一体的運営を基本に、加算を伴うサービス向上を考えた職員配置を行い、効率的かつ強力な組織を目指す。

⇒たん吸引等の職員配置による夜勤職員配置加算やデイサービス事業と連携した「1人暮らし等夕食配食サービス」の実施を開始した。職員配置とのバランスを考えながら看護や調理部門での加算は次年度の課題となった。

○現実的ライフスタイルに合った就業規則等の改定や職員の健康管理の強化に引き続き取り組むとともに労務管理体制を整備し、労働環境の向上を図る。

⇒就業規則や給与規程の運用について書式等も見直し、非常勤職員も含めて周知徹底に努めた。職員の健康管理については衛生委員会を中心に取組んだ。また、はたらき方改革に伴い育児や家族の病気等にも考慮した休暇制度に改めた。

○部署毎に計画を立て取り組んでいる収支改善計画を着実に実施することにより財務状況の健全化、職員処遇向上を目指す。

⇒物品の節約および業務効率化や人員配置の見直し等により残業減に各部署で取組んだ。

(3) 人材育成の取り組みの継続

○非常勤職員、中途採用者・EPA(海外経済連携協定)等も含め、多様な人材が法人理念のもと成長できるキャリアパスの見直しを行う。そ

の際に、就労意欲の継続性を大切にした職務基準となるよう改定する。
⇒現状の職務基準書の見直しに社会保険労務士等の第三者の意見も
入れながら着手を開始した。新処遇改善加算との整合性および基準
の職員参画型の本格的な見直しは次年度の課題となった。

○そして、この取り組みを基本に人材確保対策の幅を広げ、中期的視
点に立った育成システムを構築する・

⇒専門学校より新卒2名・EPAのベトナム人介護福祉士候補生の2
名の決定などこれまでの取り組みを活かした採用は成果を出せた。
また、外国人雇用の幅を広げる取り組みや中途採用者の採用の工夫
などの検討を始めた。

平成30年度 軽費老人ホーム箱根山荘 事業報告

建物等の老朽化など、軽費老人ホームをとりまく環境は、日々めまぐるしく変化している。入居者のADLの低下による生活支援サービスの質的、量的変化への対応、自然災害に対する対応、など…。これらを施設に与えられた課題としてひとつずつ取り組んできた。

<本年度の主な入居者の状況・新たな事業等の取り組み>

入居者は一時期66名の定員中60名まで減少したが、職員の努力によって年度末には66名定員まで、回復させることが出来た。。

(1) 介護予防とQOLの維持向上に向けた事業の展開について

①入居者の状況では高齢化、虚弱化とADLの低下がみられます。

- ・介護認定者 27名
- ・介護入浴を必要とする者の増 31名
- ・デイサービス利用者 19名
- ・シルバーカー利用者 20名

②えれんな生きがい活動の取り組み

・入居者に対するクラブ活動(エレンな生きがい活動)等の参加の呼びかけを行って健康の維持、生きがい活動を行った。参加者にポイントを渡して、ポイントを活用して物品交換会(春夏二回)を実施し、月に1度の喫茶を展開した。

(2) 健康維持・保健活動について

・伝統行事、ファミリー会などの開催のほかに、感染症対策委員会を中心とした感染症予防(ノロウイルス、インフルエンザ等)対策、下記の熱中症対策としてスポーツ飲料と乳酸飲料の配布を実施し、入居者の健康維持・管理に努めた。1月入居者が病院に入院中にインフルエンザを発症し病院からは退居させられ、同時期職員も1名発症したので、1時期緊急対応した。

(3) 防災の取り組みについて

・予想される地震等の災害について、実践的な対応訓練を実施した。また増設された防災倉庫を点検し対策用品(主に食糧品)の拡充を図った。

(4) 軽費老人ホーム箱根山荘のPR、職員の研修の強化を図った。

・花園会(園芸クラブ)で育てた“朝顔”約50鉢を、日頃よりお世話になっている個人・団体・業者に配った。また、例年通り広報誌を年二回発行した。

(5) その他

- ・旧館の消防機器の調整が困難のため、小田原消防署の指導で4階と5階間に隔壁を設置して対応を図った。
- ・ウインドクーラー11台の寄贈が得られたためこれを設置した。
- ・各種委員会の報告等、別紙参照。

以上(文責清水)

別紙

入居者の性別・年齢別内訳

		70未満	70-74	75-79	80-84	85-89	90以上	計
30年度	男性	2	1	8	3	6	2	22
	女性	1	1	5	11	14	12	44
	計	3	2	13	14	20	14	66
29年度	男性	1	1	5	6	3	4	20
	女性	1	1	6	12	12	12	44
	計	2	2	11	18	15	16	64

入居者の在所期間別内訳

	1年未満	1年以上4年未満	5年以上7年未満	7年以上10日未満	10年以上	計
30年度	8	23	12	11	12	66
29年度	9	19	15	8	13	64

入居者の入居前住所地別内訳

	入居者数		入居者数
横浜市	3	山北町	2
相模原市	1	箱根町	9
平塚市	2	真鶴町	5
小田原市	32	湯河原町	4
秦野市	3	開成町	1
南足柄市	2	県外	2
		合計	66

入居者の要介護度

	30年度	29年度
自立	38	26
要支援1	7	6
要支援2	8	7
要介護1	10	19
要介護2	2	6
要介護3		
要介護4	1	
合計	66	64

連帯保証人の状況

	兄弟姉妹	子ども	甥姪	知人友人	後見人	孫	従妹	不明	計
30年度	11	27	4	3	17	2	1	1	66
29年度	14	27	6	4	13				64

退去者の状況

施設区分	30年	29年
特別養護老人ホーム		2
グループホーム	1	1
長期入院	2	3
死亡	1	4
有料老人ホーム	2	
老健施設	2	
自宅	1	
計	9	10

退去の理由

	30年度	29年度
日常的介護が必要となった	3	3
入院が必要となった	3	3
死亡	1	4
保証人の近くへ移動	1	

平成30年度 施設内 援助サービス月別実施状況

(単位:人)

サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間利用者数
配膳盛付席	23	22	23	23	25	25	26	23	24	25	26	23	43
見守り入浴	27	26	25	25	28	27	28	25	25	27	27	26	46
PTイレ 洗淨管理	12	12	12	12	12	11	12	10	9	10	9	10	22

★新入居者は、食事・入浴共に1班からの開始となった為、年間利用者数の増加に繋がっている。

★居室清掃は個々の状況に応じて、各階担当ヘルパーが適宜対応している。

1年を通じて実施するもの

- ・上記サービスの他には、容態悪化などによる一時的な身体介護・家事援助サービスを実施。
(居室配膳、身体清拭、水分補給、PTイレ洗淨、洗濯、居室整備等)
- ・布団乾燥や荷物の移動等については、ご入居者の依頼に応じて随時実施。
- ・障子の貼り替え等、軽微な居室修繕は随時実施。
- ・衛生面を考え、毎月1回各居室の冷蔵庫内の点検を実施。

季節的に実施するもの

- ・6月 害虫対策として害虫駆除薬剤購入斡旋。全居室内薬剤散布援助。
- ・7月 布団乾燥援助として、布団乾燥出張サービス業者の斡旋。
- ・夏期(6月～10月) 脱水予防のための入浴後の水分補給を奨励。浴室に麦茶を用意。
昨夏は特に猛暑だったため、熱中症対策として、午前-飲むヨーグルト、午後-麦茶・スポーツ飲料を各居室まで声掛け・配布にまわった。

平成30年度 施設外サービス利用状況

(単位:人)

サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間利用者数
外出・受診付添	8	7	6	7	11	7	9	11	11	8	9	5	21
デイサービス	10	11	10	13	15	14	13	13	12	13	12	13	18

平成30年度 クラブ活動実施状況

(単位:人)

クラブ・サークル名	1回当たりの 平均参加人数	最多参加人数	指導担当者	実施回数
折紙クラブ	6.9	10	栗原 操	月2回
大極拳	6.7	10	永井 康江	月2回
コーラス会	10.6	13	小澤 一	月2回
器楽の会	5.9	7	川島 由美	月2回
カラオケクラブ	17.3	22	ヘルパー	週1回
大正琴	5.7	6	相談員	不定期
あしたばの会 <small>★平成29年8月より、どちらか一方の参加に限定</small>	15.5	18	ヘルパー	週1回
わかばの会	13.2	18	看護師	週1回
映画	11.7	16	ヘルパー	月1回
朝の体操 <small>ラジオ体操・老人体操・棒体操</small>	11	23	職員	毎日
にこにこ体操	17.3	26	看護師	週2回
散歩クラブ	10.7	17	看護師	月2回
脳トレ	10.6	15	職員	月4回
花園会	7.6	22	職員	月1回
あゆみの会 <small>(盆踊り同好会 平成30年6月～)</small>	7	10	入居者主導	月2回

箱根山荘過去3年間 援助状況

(単位:人)

援助内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度
食事盛付対応者	21	23	25
トイレの洗浄・管理	8	12	11
介護入浴者 (見守り入浴)	24	27	29
洗濯対応者 (入浴時)	0	0	0
小遣い出納援助	5	4	3
配薬要援助者	14	12	13
外部付添サービス利用者	4	7	5

3月末日現在

- 1.洗濯は入浴時の他に失禁時等には随時対応している。また、居室清掃、パジャマ・シーツ・布団カバー類の洗濯等も必要に応じて適宜実施している。
- 2.居室清掃は平成13年1月より山荘ヘルパーが個々の状況に応じて適宜実施している。平成17年10月より、受診付き添い等は基本的に山荘内部で対応するようになったが、平成22年12月より外部サービス・ボランティアの利用を開始した。
- 3.季節の衣類の入れ替え・整理は、基本的には本人・家族がおこなっている。
- 4.居室清掃時間は利用者の状況によって異なり、一律ではない。(平均約15分から30分)